

第4回宮本常一写真講座

「写真が語る地域像」を開催します

本町出身の民俗学者・宮本常一（1907～1981年）は離島振興をはじめ、全国各地で地域振興策を提言した人物です。周防大島文化交流センターが所蔵する約10万枚の写真は、戦後の地域社会の変容が記録された資料群であり、また宮本が地域づくりへ注いだ「まなざし」でもあります。

当センターではこれまで3回にわたって、「宮本常一写真講座」を開催し、宮本写真の持つ魅力を紹介してきました。今年度も「写真が語る地域像」というテーマで、河西英通氏（広島大学教授）を司会に迎え、写真講座を開催します。

当日は、『宮本常一写真日記集成』の編集を手がけた平嶋彰彦氏（元毎日新聞ビジュアル編集部）、中村鐵太郎氏（詩人）の講演を開催し、パネルディスカッションでは、写真資料に造詣の深い森本孝氏（元「あるくみるきく」編集長）、高橋延明氏（写真家）、木村登氏（NPO法人萩まちじゅう博物館・古写真班）の三氏も交えて、私たちがたどった暮らしのうつり変わりを振り返ります。さらに会場には、周防大島の昔なつかしい風景など、宮本常一が撮った写真も展示します。

現在、写真は学術研究の場でも積極的に活用されはじめていますし、また「地域の再発見」を目的に、古写真から地域の歴史を探る市民活動も各地で行われています。宮本写真をもとにして、周防大島の歴史をみつめ直し、これからの島づくりを考えていただければと思います。どうぞ皆さんふるってご参加ください。

■開催日時

9月25日(土) 午後2時～5時

■会場 東和総合センター大ホール

■内容

①基調講演

平嶋 彰彦氏

「写真の記録性について」「宮本常一が撮った昭和の情景」をめぐって」
中村鐵太郎氏

「記憶の糸口、日々のほつれ」
河西 英通氏

「歴史研究と写真資料」

②パネルディスカッション

「宮本常一の写真に見る昭和の生活誌」

・司会…河西英通氏

・パネリスト…平嶋彰彦氏、中村鐵太郎氏、森本孝氏、高橋延明氏、木村

登氏

③会場展示

「宮本常一が写した昭和」

10万枚の写真から「山の営み」・「港のにぎわい」・「町並みと看板」・「昭和の子どもたち」などのテーマに沿って写真を選定して展示。また住民の方にもご参加いただいて宮本写真の現地調査を行い、その成果も展示します。

■主催 周防大島町教育委員会、(財)自治総合センター

■後援 総務省、みずのわ出版、萩博物館、NPO法人萩まちじゅう博物館、三原市文化財協会、尾道学研究会、NPO法人かみじまの風、広島大学大学院文学研究科比較日本文化学プロジェクト研究センター

■入場料 無料

■参加定員 200名

■問い合わせ

周防大島文化交流センター

☎0820(78)2514

このシンポジウムは全国モーターボート競走施行者協議会からの拠出金を受けて実施するものです。



旧東和町長崎付近の干潟／昭和36年4月
※文化交流センター所蔵の宮本常一撮影の写真